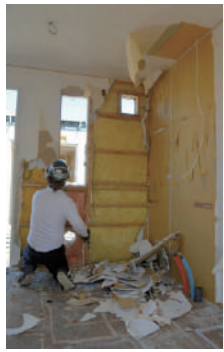




消化するログハウス

— 温かみのある省エネ作業所としての提案 —

01 プレハブの後始末



分別に手間がかかる



解体に手間がかかる

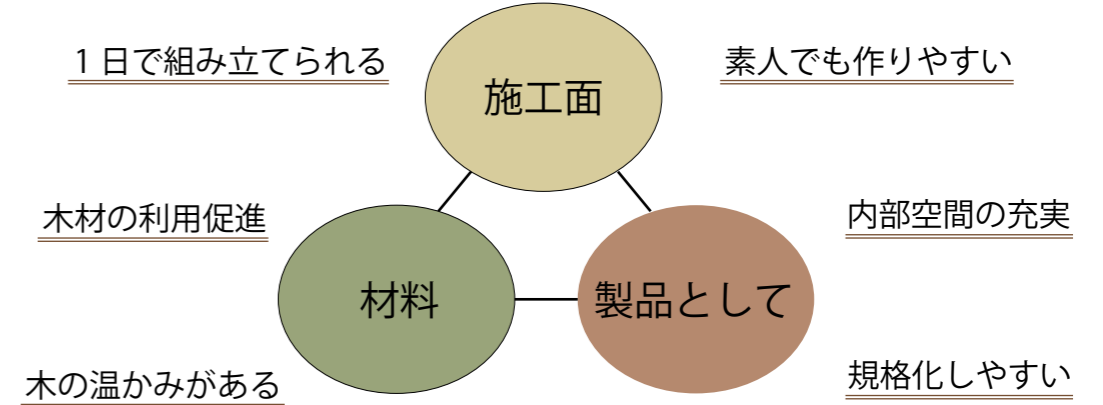
プレハブの問題点



プレハブの後始末

工事現場に設けられる作業所としてのプレハブ。そこには施工、再利用、分別、運搬、解体のしにくさやそれに対するコストなどといった様々な問題を抱えている。

02 ログハウスの良いところ

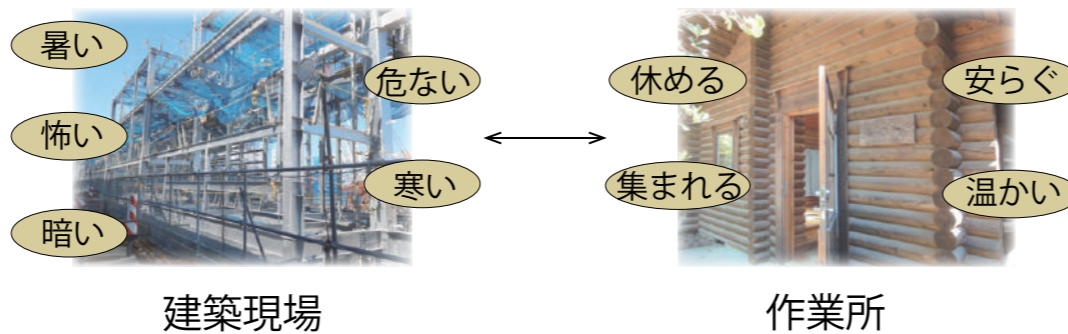


03 提案：ログハウスの作業所

私たちはログハウスを作業所として使うことを提案する。本提案では中長期的な工事現場を対象とする。仕事場として毎日利用するにも関わらず、作業環境としての快適性や省エネ対応が疎かにされがちな建築現場のプレハブ作業所を、ログハウスで構成することで、建設やすさと職場としての快適性を両立することが可能となる。

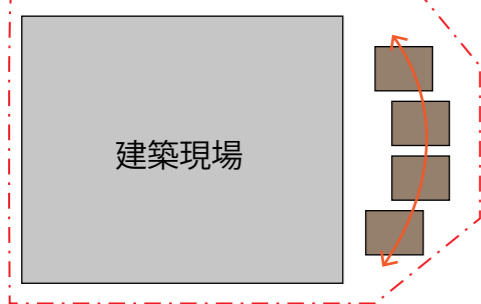
04 作業所が快適であること

常に緊張感がある工事現場に対して、安らげる作業所の存在が重要である。

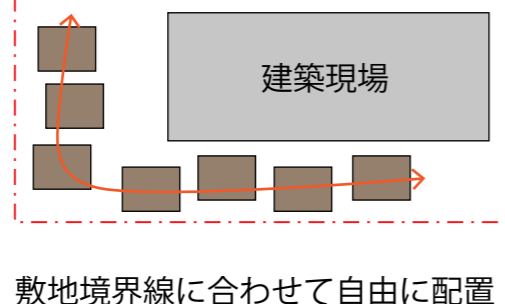


05 ログハウスを組み合わせること

パターンA

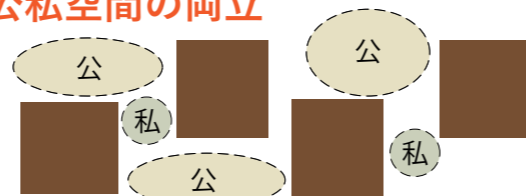


パターンB



敷地境界線に合わせて自由に配置

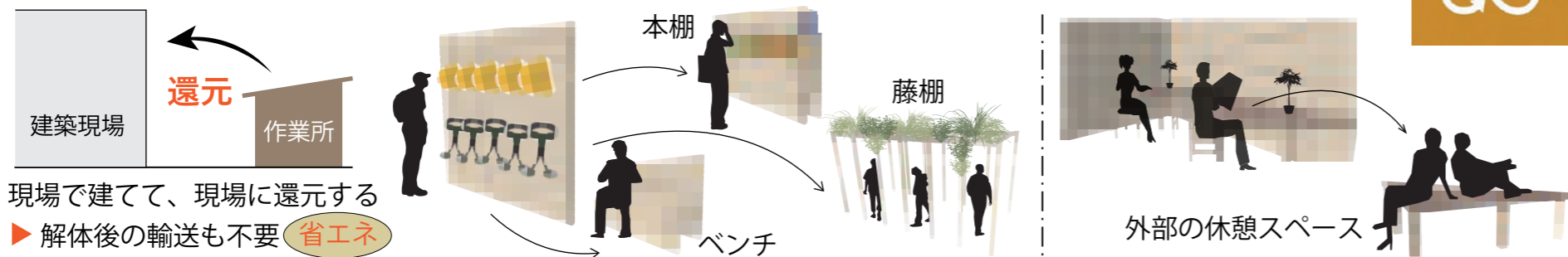
公私空間の両立



ログハウスを雁行して配置することで、現場ごとに多様な作業所を作り上げる。隙間は作業員の居場所となり、公私の環境を選択できるようにし、職場環境の快適性を高める。

06 製材の転換

ログハウス作業所は役目を終えると、人の手によって解体される。出てきた製材は、用途を転換させ、建築物に付属する家具や、広場を豊かにするモジュールとして利用することで材料を無駄にしないサイクルを生み出す。

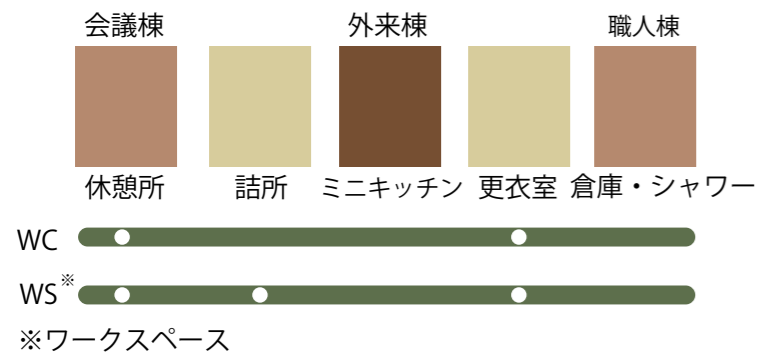


離れていても繋がっているパブリックウィンドウ

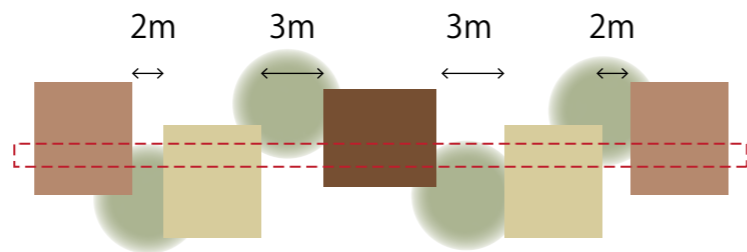


07 ダイアグラム

作業所として必要な諸室を1ハウスに当てはめる



雁行させて配置しながら、ログハウス同士に2mや3mの隙間を設ける

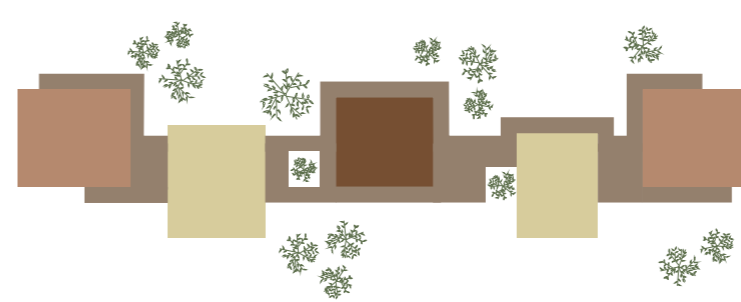


軸を通し、その箇所を開口部とする

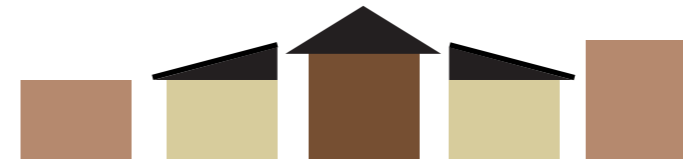


機能に合わせて屋根形状を決定

テラスを設け、作業所に回遊性を生む
淀み空間は植栽空間としても活用



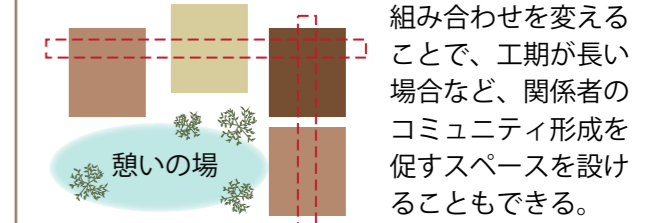
オモテウラを設けず、多様な居場所を生み出す



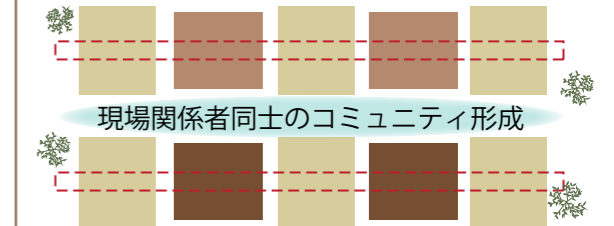
一部向きを変え、立面を充実させる

敷地によっては、

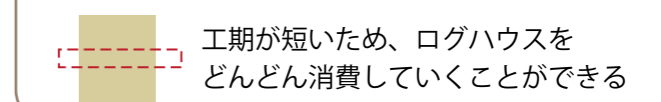
L字パターン



直線並列パターン



小規模建築パターン



08 構造、構法、規格

課題

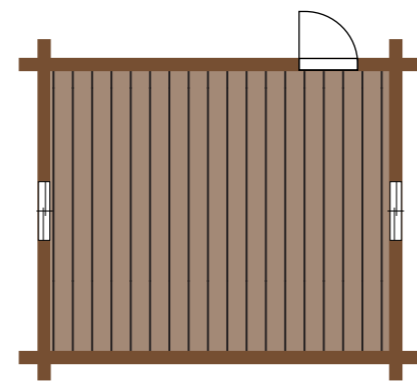
「ログハウスのポピュラーモジュール
5m×6mサイズで省エネルギー対応
ログハウス空間を自由提案」

設計条件

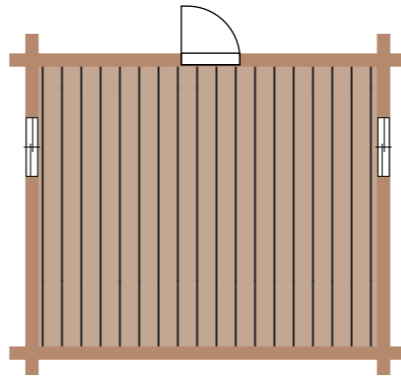
- ・丸太組構法、平屋建て、ログ壁高さ4m以下、建築物高さ13m以下とする
- ・床面積は5m×6m (半屋外空間、テラス等は含まない)
- ・室内に間仕切りログ壁を入れることも可
- ・屋根形状は切妻、寄棟、片流れ、その他形状自由

ダイアグラムに合わせて開口部、出入口を、機能に合わせて樹種を決定し3種類を規格化。

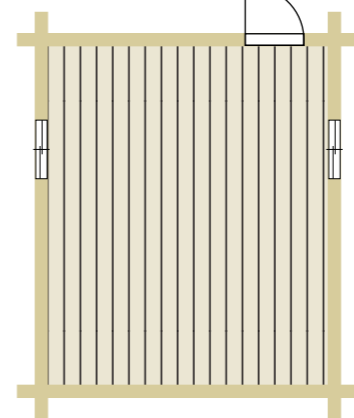
規格A 中央窓パターン
アフゼリア



規格B 間口6mパターン
レッドパイン材

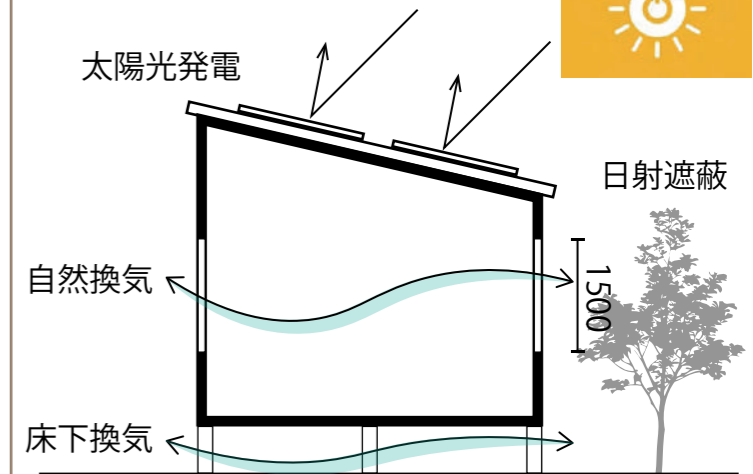


規格C 間口5mパターン
ホワイトオーク



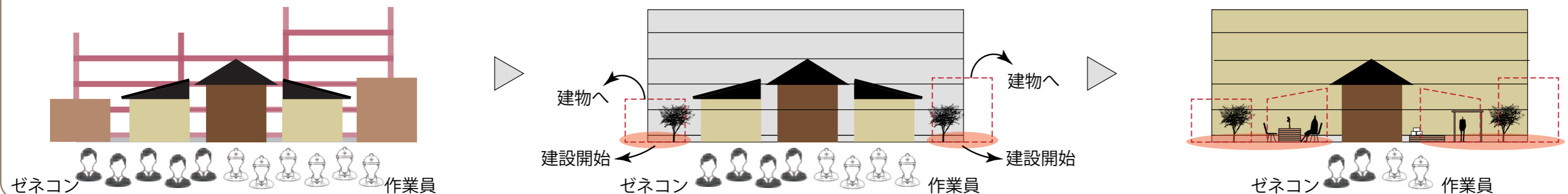
09 省エネ

開口部を大きく設ける等して、
自然換気を促し、省エネを図る



10 解体プロセス

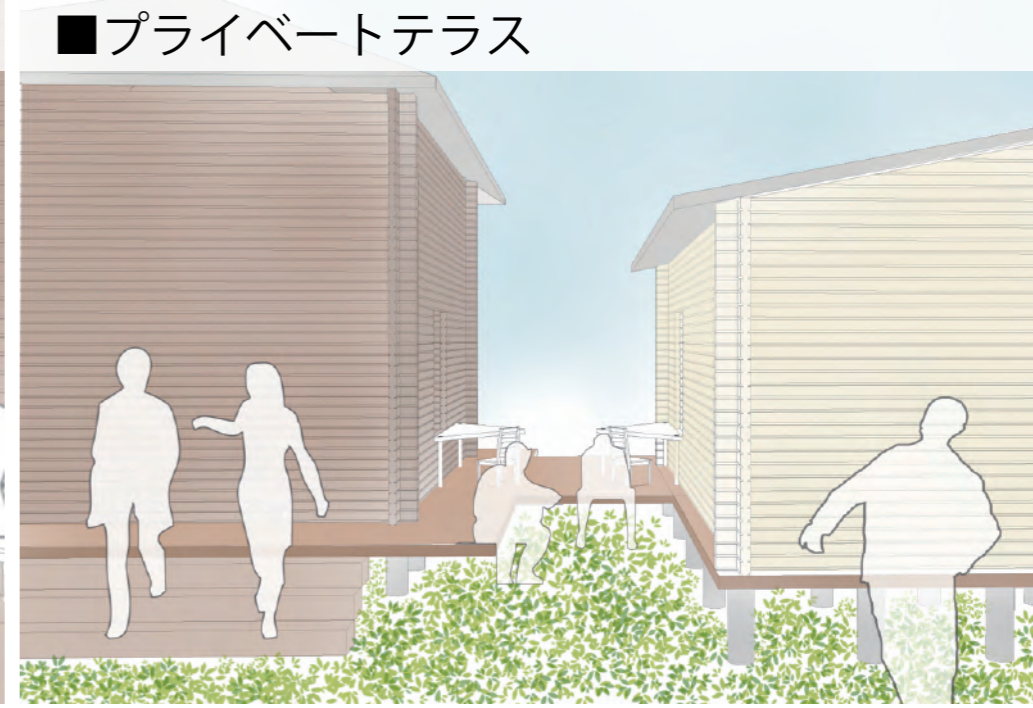
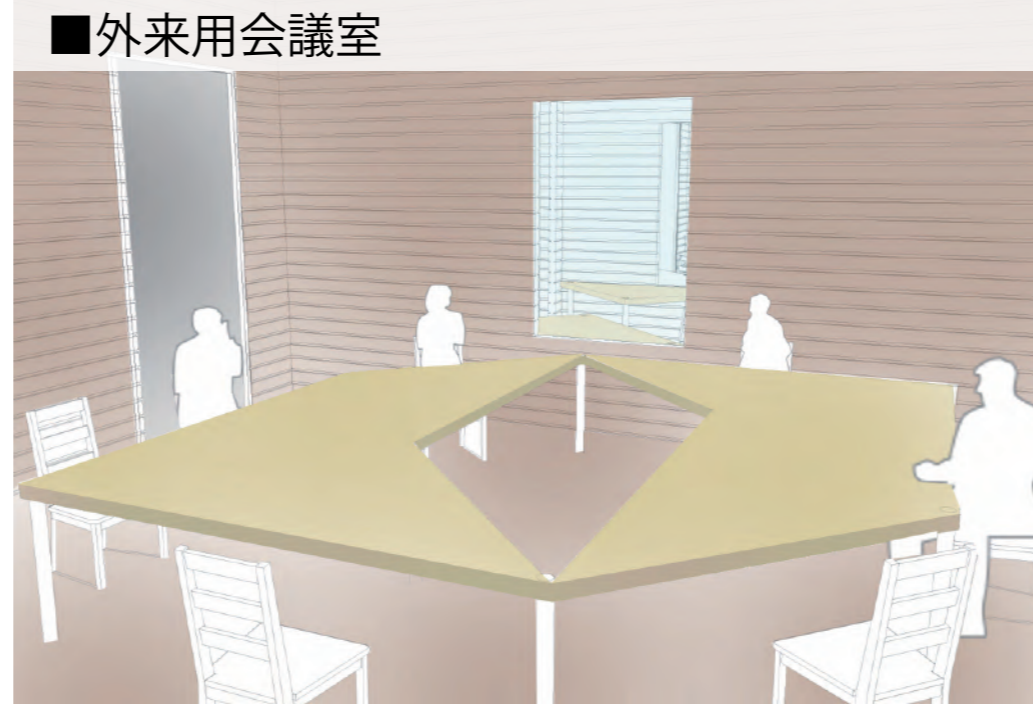
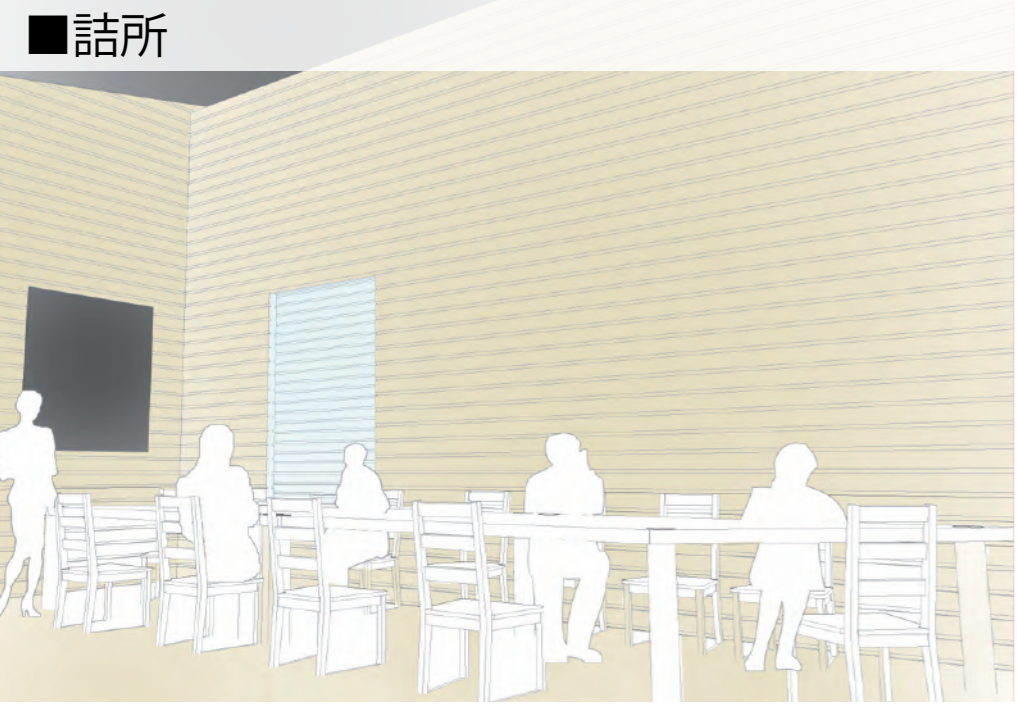
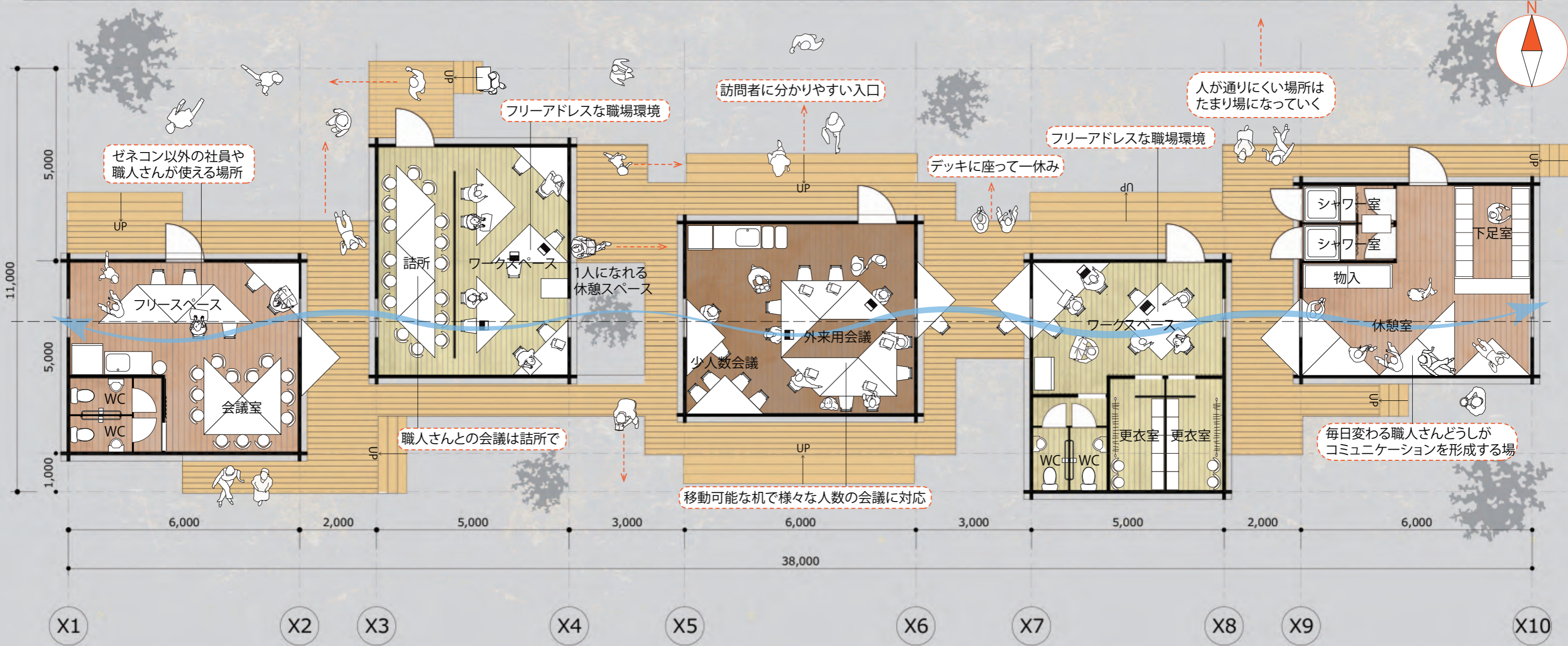
工期が進むにつれ、現場に携わる人も減っていく。それに合わせてワークスペースや職人棟を縮小し、随時解体して、建築現場に転換していく。



12 つくる責任
つかう責任



建築現場



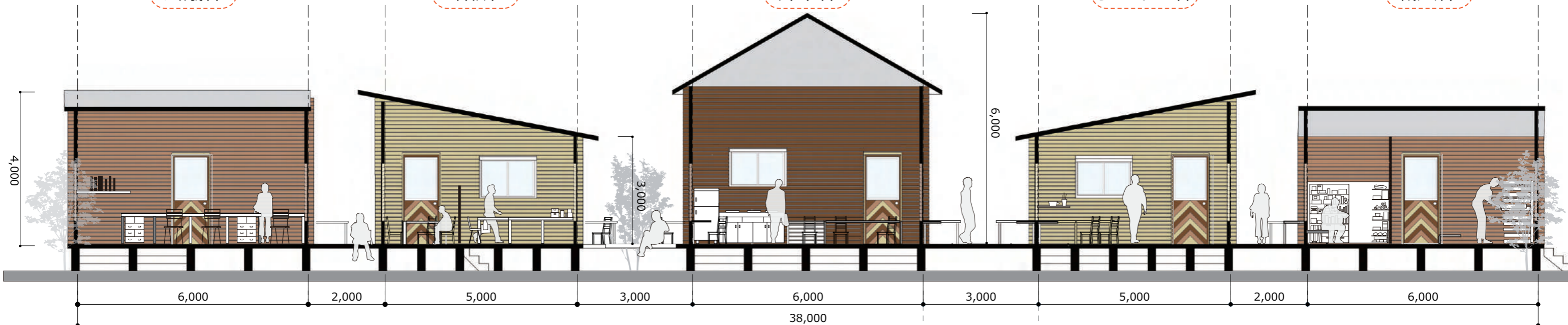
会議棟

詰所

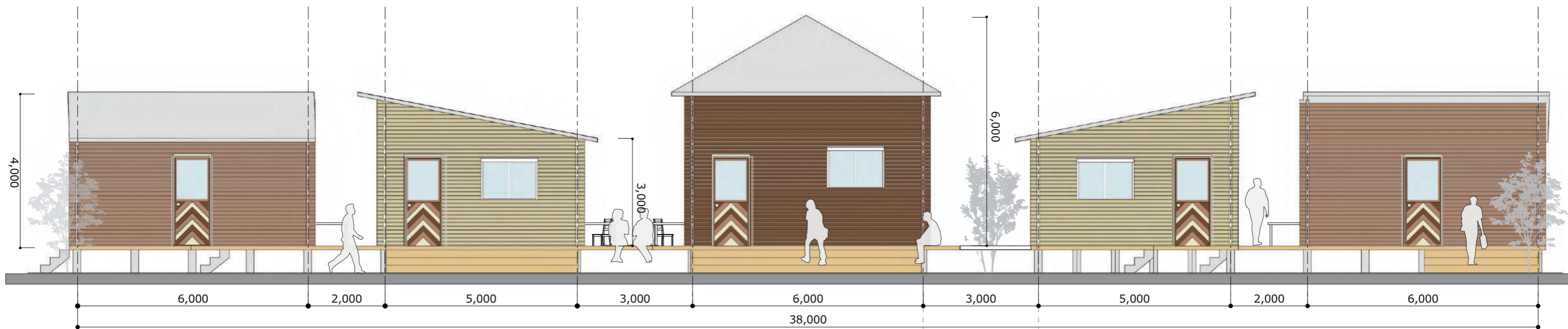
外来棟

オフィス棟

職人棟



A-A' 断面図 S=1:100



北面立面図 S=1:100

